

## 北アルプス・笠ヶ岳鉦山

2017年9月13日～15日朝

<メンバー>単独

<コースタイム>駐車場 4:45～5:50 林道終点～7:50 鉦山取付 8:30～11:20 ズリ下端～12:35 最上部石垣～12:45 大岩坑跡～13:55 最上部到達点～ズリ下端 14:45～16:05 取付 16:25～18:00 林道終点～18:50 駐車場

<主要装備>(上半身)ヘルメット・薄手上着・長袖オーロンシャツ・軍手・ダブルストック、(下半身)薄手ズボン・パンツ、(足回り)軽登山靴・ショートスパッツ・ピンソール、(非常用具) 雨具・ダウンジャケット・ツェルト・8mm40mロープ、(行動食)1リットルペットボトル・おにぎり1・パン1・ビスケット・アミノバイタル・ウィダーinゼリー1・塩飴、(石道具)軽量ハンマー・タガネ

<13日>

朝食後発で、栃尾のAコープで弁当を買い、深山荘で入浴後、満車表示の無料駐車場に空きがあったが、有料駐車場に停める。弁当と日本酒で酔いが回りひと眠りしたあとは寝つきが悪く熟睡したのは3時間くらいか？



<14日>

10℃近くまで冷え込み、雨具上下を着こみ暗い中、出発。ゲートで登山計画書を投函する。この先もけっこう舗装されてて自転車なら快適そうだ。

(林道終点にて)



靴を脱がずに、辛うじて足を濡らさずに石飛びできた。

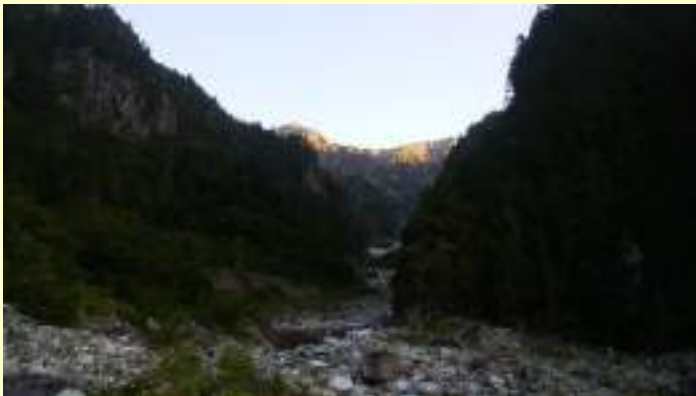
(対岸より)



(下方に新穂高温泉、右遠方に焼岳)



(中央やや下に鉾山ズリ)



ズリをやり過ぎると、小岸壁に阻まれ、対岸に石飛びする。やがて間ノ沢出合。これを遡ると藪漕ぎなしに鉾山に辿り着けるかもしれない。

(ガレガレの間ノ沢)



間ノ沢を見送り、しばらく川沿いを進むが行き詰まり、右方の段丘に上がる(ルート図A地点)。

(ルート図A地点にて)



段丘上をしばらく進み、右方の小沢に入り遡ると、大岩壁基部の岩小屋に至り、対岸に三ノ沢が出合う。

(岩小屋)



(三ノ沢)



三ノ沢出合も問題なく石飛びできた。

(上流方向)



(下流方向)



(上流方向)



(対岸より)



(前半ルート図)



三ノ沢を少し登って鉾山取付にて一休み。行動食を食べ、雨具上下を脱ぎ、スパッツとピンソールを装着する。

(三ノ沢)



(鉾山取付の凹状斜面)



(ニッコウキスゲ)



右端の大岩下付近からズルズル滑りそうになりながら取付き、しばらく登って左方の灌木帯にトラバース後、直上してゆくと、左上方に草付き斜面、左方に台形状岩峰が見えてくる。



しばらく左方にトラバース後、直上し、岩峰右基部の平地に登りつく。ここで昨秋、穂高の遠景を撮ったが今は木の葉が繁茂して駄目である。

さらに直上してゆくと、左方に台形状樹林ピークが見えてきて、昨秋の最高到達点の岩屋に着く。坑口を岩で塞いだようにも見える。

(台形状樹林ピーク)



(昨秋の最高到達点の岩屋)



取付きからここまでは今回も某石マニアペアのピンクテープに助けられた。ここからは自力でピンクテープを付けてゆかねばならない。



藪の薄いところを狙って直上して行くと、ドラム缶みたいなのがあった。



お〜っ、ズリに飛び出した〜！！ 穂高連峰も見える！！



ズリズリと少し登り、レールの切れ端に腰を下ろし、穴毛谷大滝付近を遠望する(B地点)。



また少し登り、ズリ対岸から穂高連峰を遠望する(C地点)。



さらに登る。



さらに登る。



さらに左上方へ登り尾根に上がる(D地点)と間ノ沢源流が見え、足元はスッパリと切れ落ちている。





もう少し登って展望。





(最上部石垣)



(最上部石垣の上から)



左下方の大岩へ下ると、坑跡らしきものがあった。これまで鉱石らしきものが見当たらない中で、地面をハンマーでひっかいてみると青い二次鉱物らしきカケラが一つ出て来た。



鉱脈露頭に行けるのではないかと、最上部石垣の上方へ藪漕ぎしてみたが、途中で断念。

左方へ振ってみたら足元が切れ落ちていて、間ノ沢源頭が見えた。



引き返して、気になった岩峰下の平地に行き、何気なくエビ茶色シミで汚れた石英を割ってみると、銀白色の方鉛鉱らしき粒々や黄銅鉱が入っていて驚いた。



ズリ対岸やや下方にバンド状斜面(E地点)があったので少し進んでみた。先は藪に突き当たり上方へ草付きが伸びている気配だった。三ノ沢まで行ければ近道になるのだが・・・。

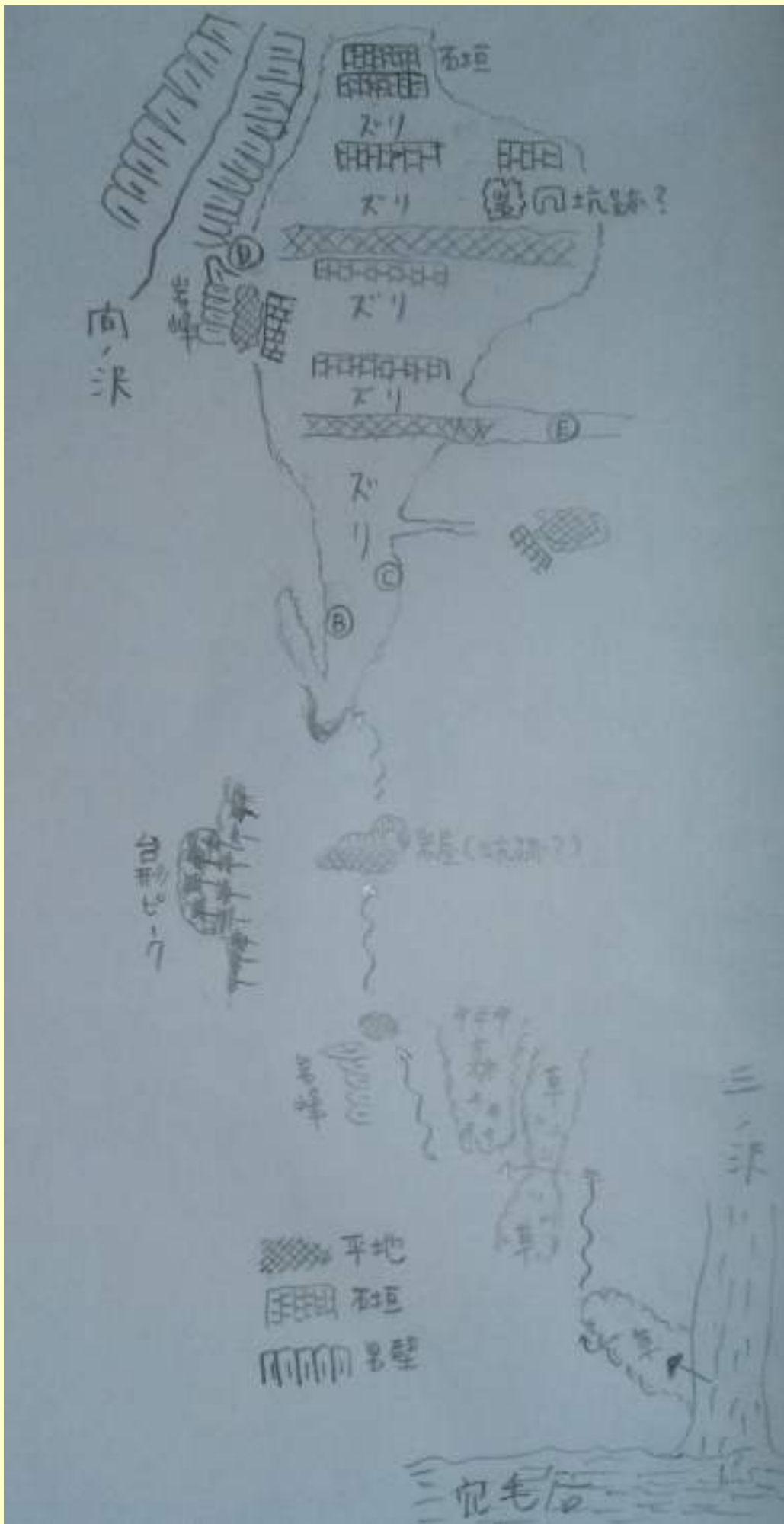
(岩峰下の平地より)

(E地点より)



E地点の下方に石垣と平地が見えたが、途中までしか行かず、往路を引き上げることにした。

(後半ルート図)



(GPSログ)

